

エコミュージアムとは、地域全体を一つの博物館としてみだて、地域資源の保存、復元、活用について地域住民が積極的に参加することで、地域への愛着を深め、交流を深めていく活動です。

写真が語る歴史 {写真展より}

古くから相模川と境川、その支流の水を上手に利用してきた城山町。今回は“水”をテーマにして写真展と11月に開催されたツアーについて語ります。



高瀬舟：相模川で物資の輸送に使われていた。大正10(1921)年撮影。風を利用して川を遡(さかのぼ)る様子。

相模川・小倉



大正10(1921)年撮影の渡し船。この写真には船頭と乗船客3人(うち一人は自転車をもっている)が写っています。当時の渡し賃は1銭(せん)から6銭で荷物や川の荒れ具合によって変わったようです。(当時、きつねうどんが、2~3銭だったとか)



木製の小倉橋 (大正末~昭和初期頃)

相模川に橋が掛かるまでは、渡し船が移動の手段でした。人も牛も、自転車まで船で渡りました。牛・馬を渡した船は人のそれよりも船幅が広がったそうです。

1番上の写真は、相模川を航路として小倉川岸と呼ばれた船着き場と河口の須賀(平塚市)を行き来していた高瀬舟。江戸時代に盛んだった大山詣。八王子、高尾から、またこの地一帯から大山(伊勢原市)に向かう一行は、この小倉から船で相模川を下りました。



鮎漁解禁日の相模川 昭和42(1967)年撮影。下流に小倉橋が見えます。



—工事中の新小倉橋—
平成16(2004)年に完成し、現在は新、旧の美しいアーチの橋を見ることができます。



原宿用水取入口

昭和40(1965)年撮影。エコミュージアムでツアーコースの選定をしたころまではほとんど変わらず残っていましたが、平成19(2007)年には河川改修のため姿を消しました。江戸時代初期に開かれた原宿地区は水に恵まれなかったため、用水路「原宿用水」を造り境川の水を原宿へと導きました。県営水道の普及で用水の役目を終えるまで、原宿の生活用水として長く使われました。境川の入入口は町屋地区にあり、取入口の開け閉めをした経験を持つ町屋在住の方がいます。

原宿バス停留所と少女

昭和30(1955)年ごろ撮影されました。国道413号線の原宿にある「原宿バス停」。写真左側に原宿用水の跡が見られます。現在も国道沿いのお宅で、用水跡が残っているところがあります。原宿用水について詳しくは、冊子「城山町エコミュージアムのみちシリーズⅡ原宿用水コース」で紹介しています。



写真展 {ちょっと昔の城山町}

平成21(2009)年11月1~3日 城山町地域市民文化祭にて開催しました

平成17(2005)年からの写真収集も、年を重ねるとともに膨大なそしてたいへん貴重な資料となってきました。収集するとともに、この写真がいつどこでどういう状況で誰に撮影されたか、検証しデータに残すという作業も行われています。そんな中、写真展をご覧になった方々からいろいろな情報をお寄せいただいたり、また、新たな写真の提供などエコミュージアムの活動にご協力をいただいています。感謝とともに、地域の住民みんなが作り上げていくエコミュージアム本来の取り組みが着々と進んでいることに喜びも感じています。これからもより多くの方々の目に触れ、エコミュージアムの活動が地域に根ざしていくよう、折にふれ写真展の開催を企画してまいります。



エコミュージアムツアー “水”の恵みを訪ねて(城山湖コース)レポート

城山町北部地域は、里山などの豊かな自然が残り、古くからの歴史もあります。今は城山湖のように水を利用した発電施設などがありますが、昔は決して豊かとは言えない小さな川の水や沢水などを上手に利用しながら、城山町地域では数少ない水田などを作っていました。また、江戸時代、短い期間でしたが川をせき止め、ため池(今で言うダム)も造っていました。

昨年11月22日に開催したツアーでは、このような「水」に係わる自然と歴史を中心に、この地域を訪ねました。

当日のツアーの様子をコースをたどりながら振り返ってみましょう。

小雨がぱらつくあいにくの天気にもかかわらず、多くの方に参加いただき総勢49名で歩きました。

⑪金刀比羅宮 (ことひらぐう)

龍籠山の山頂近くですが、境内に「雨乞い祈願」の池があり、海の底であった証拠の小仏層の露頭も見られます。



④良円山弁財天 (りょうえんざんべんざいてん)

水を司る神様弁財天の話と地域の祭りの話をうかがいました。



③城北窯戸工房 (じょうほくかまどうこうぼう)

地元の方から直接昔の暮らしの話をうかがいました。小川に生き物があふれていた様子が、伝わってきました。



⑫評議原 (ひょうぎばら)

美しい紅葉の中、参加者皆さんと記念撮影



⑥谷戸田 (やとだ)

コメの収穫間際に現れたイノシシの話をうかがいました。ツアー中、イノシシ出没の痕跡はいたるところで見られましたが、これもエコミュージアムならではの展示物です。



⑬城山自然の家

水の恵みを訪ねるツアーの締めくくりは、きれいな水に棲むホタルの話でした。



※他の丸数字の場所の名称は裏面です。

エコミュージアムツアーって何?

博物館の特別展に相当するもので、自然、歴史・文化遺産をガイドの案内でめぐり、語り部や交流・体験などを通して地域を知るしくみです。

エコミュージアムツアーでは建物のある博物館と違い、あるがままの自然や地域の歴史・文化をそこに住む人から直接聞けるなど貴重な体験ができます。

ツアーコースのご案内

城山総合事務所<スタート>

- | | | | |
|-----------|---------|---------|-------|
| ①春林横穴墓群 | ②春林・横井戸 | ③城北窯戸工房 | ④自然観察 |
| ⑤良円山弁才天 | ⑥谷戸田 | ⑦溜池跡 | ⑧自然観察 |
| ⑨コミュニティ広場 | ⑩城山発電所 | ⑪金刀比羅宮 | ⑫評議原 |
| ⑬参道（自然観察） | ⑭小松城跡 | ⑮城山自然の家 | <解散> |

参加した人からのひと言

道中、要所ごとに「育てる会」や「里山を守る会」の語り部から分かりやすく丁寧な説明を頂き、感謝しています。皆様が郷土を愛し、守り、後世に伝えようとされる姿に感動しました。城山は自然・歴史・文化・人が、私達に憩いと癒しを与えてくれるフィールドと再認識し、次もまた参加したくなるツアーでした。最後にお土産の「梅干し」ありがとうございました。（松山隆治さん、相模原市下九沢）



主催者からのひと言

当日は、小雨がぱらつく天候にもかかわらず、市内外からたくさんの方々に参加していただきありがとうございました。皆様が地域の語り部に真剣に耳を傾けていただき、町の歴史や文化とともに、炭焼小屋や谷戸田のある里山と周辺に出没するイノシシの痕跡（こんせき）など、豊かな自然を体感していただけたと思います。（塩谷弘道、エコミュージアムを育てる会）



しろやま探訪 - 落合兵次郎碣^{はつ} -

※碣＝墓碑

小倉の八幡神社の参道入口に大きな石碑があります。明治10(1877)年に起きた西南戦争で戦死した落合兵次郎の碑です。落合兵次郎の生家は、小倉村では苗字帯刀を許される由緒ある家柄で、明治初年には父・弥平次が小倉村の戸長を務めていました。当時、徴兵は税金を納めることで回避できましたが、弥平次は戸長としての責任と村人への範を示すために次男の兵次郎を兵役に服させたといわれています。

軍に入営した兵次郎は、西南戦争勃発とともに政府軍として九州に赴き、明治10年3月田原坂（たばるざか）の戦いで戦死しています。この碑は明治33(1900)年、「湘南村恤兵会（しょうなんむらじゅつべいかい）」という組織によって建立されました。

<西南戦争>

明治時代になると、秩禄処分（ちつろくしょぶん）や廃刀令などによって武士の特権が廃止された。これに不満を持った士族たちは、各地で反乱を起こした。中でも西南戦争は西郷隆盛を擁（よう）し、最大の士族反乱となったが、9月政府軍に鎮圧された。



育てる会ワークショップだより

昨秋開催のツアー「水の恵を訪ねて」では、文化財などの見学のほか、イノシシ出沒直後の痕跡や評議原の紅葉などに感動しました。ツアーの内容は、屋外ミュージアムならではの発見、体験があり参加者されたも大変満足されたようです。写真収集も充実し、文化祭での写真展示も好評のうちに終了しました。2月には、中沢自治会から依頼があり、中沢文化祭に昔の写真が展示されました。22年度も楽しいツアーを開催いたしますので、皆様の参加をお待ちしています。



発行：相模原市教育委員会 城山教育課
 企画・作成：城山町エコミュージアムを育てる会
 問い合わせ：TEL：042-783-8183
 FAX：042-782-1290

エコミュージアム活動は「城山町エコミュージアムを育てる会」が中心となって進めています。和気あいあいと楽しみながら行っています。
 この通信は、相模原市ホームページでも見ることができます。
<http://www.city.sagamihara.kanagawa.jp>